

国立研究開発法人
国立国際医療研究センター病院

National Center for Global Health and Medicine
http://www.ncgm.go.jp/

発行 連携医療ネット

住所 東京都新宿区戸山1-21-1

代表 TEL 03-3202-7181

FAX 03-3207-1038

地域医療連携室

直通 TEL 03-3202-8066

FAX 03-3202-1003



連携医療NEWS

Vol.39 7月号

副院長あいさつ

副院長

矢野 哲



この度、4月1日付けで国立国際医療研究センター病院副院長に就任しました。人間ドックセンター長、中央検査部門長、産婦人科科長も兼務しております。人間ドックは、はじめ「短期入院精密身体検査」と称して1954年7月12日に当院の前身である国立東京第一病院において開始されました。その後、この健診システムは、当時の坂口康蔵院長が名付けた人間ドックというネーミングで全国の病院に波及していきました。日本最古の歴史を誇る当院の人間ドックは、長年の実績と経験を踏まえて大西 真現院長の構想の下、2016年5月に広いスペースに「人間ドックセンター」として生まれ変わり、新たな一歩を踏み出しました。これまでは、受診者を当院の各検査部門に御案内する形でしたが、センターが開設されたことにより基本コースの全ての検査がセンター内で完結することとなりました。新規開設に合わせて基本コースの検査内容を充実させるとともに、経鼻内視鏡検査の導入、大腸CT検査、膵臓・肝臓ドックの開設、頸部血管の評価や認知機能評価を組み入れた脳ドックの拡充など、斬新な試みを数多く取り入れました。「人間ドックセンター」は、受診者皆様の健康増進ひいては健康寿命の延伸につながるよう、これからも挑戦してまいります。

内容

- ・副院長あいさつ 1
- ・新任あいさつ 2
- 旬の味覚
- ・メディカルゲノムセンター 3
- 看護通信
- ・連携登録医のご紹介 4

また、当院では各部門において世界標準を達成するための体制整備を図り国際認証の取得推進を進めておりますが、特に中央検査部門においては昨年、臨床検査室国際規格であるISO15189を取得しました。これは、当院が行う治験の臨床検査結果や海外投稿論文に使用する臨床検査値が国際的に通用することを意味します。泌尿器科、外科、産婦人科などでは、ダ・ヴィンチ手術を確立し最先端の安全な内視鏡手術を進めてまいります。さらに、当院は地域周産期母子医療センターに指定されており、従来から地域の周産期医療、産科救急を担ってまいりましたが、今後は総合周産期母子医療センター設置を目指して周産期母子医療体制の強化を図る所存です。2014年10月に高度生殖医療センターにおいて開始した、難治性不妊症に対する体外受精・胚移植などの高度生殖医療も軌道に乗っております。今後とも益々地域医療に貢献させて頂きたいと考えております。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

安心を叶える3つの特長

1. 「日本で最初」の人間ドック。高度で最先端な医療技術を誇ります。
2. 最新の医療トレンドを取り入れた幅広いオプション検査が可能です。
3. 各分野の専門スタッフがフォローアップ。精密検査や治療へスムーズにつなげます。

最先端の医療技術を誇る
人間ドックの専門施設




新任あいさつ

放射線治療科診療科長

中山 秀次



2016年4月1日に放射線治療科に着任いたしました中山秀次（なかやまひでつぐ）です。専門分野は放射線腫瘍で、放射線を用いたがん治療に取り組んでいます。

東京慈恵会医科大学を卒業後に、国立がん研究センター中央病院の内科のレジデントとして研修を開始しました。当時がんセンターでは、多発脳転移に対して積極的に全脳照射の依頼があり、それまで脳転移が生じた場合は、脳ヘルニアで亡くなると思っていましたが、全脳照射の施行によりQOLが保たれることに驚きました。少数個の脳転移には、リニアックによる定位放射線治療を先進的に施行しており、

その効果に魅力を感じ放射線治療医としての第一歩を踏み出しました。その後、筑波大学において陽子線治療の黎明期に診療に従事し、内科や外科の先生と共同してエビデンスを発信することが出来ました。

放射線治療は外科治療、化学療法と並ぶがん治療の3本柱の一つです。最新のエビデンスを基本に各科と共同して放射線治療を迅速に実践していきます。国立国際医療研究センター病院には、若く優れた放射線治療技師が多数配置され、強度変調放射線治療、体幹部定位放射線治療を高い精度で施行しております。呼吸性変動を伴う肺がん等は照射技術が問われますが、呼吸同期装置を用いた確かな治療がなされています。また、日本には少数しかいない、高エネルギーX線を照射できるリニアックを有し、前立腺がん、食道がんなどに威力を発揮しています。

強度変調放射線治療、定位放射線治療など高度な放射線治療を迅速に施行しております。地域連携を深め他病院とも共同してがん治療に従事できればと思いますので、御指導御鞭撻を頂ければ幸いです。

旬の味覚 トマト

管理栄養士

島田 未侑



春先から夏にかけてうま味をます夏の定番野菜トマト。これから夏本番の暑さを迎えるこの時期に、食べるだけで暑さから体を守り、水分を補ってくれる強い味方です。

真っ赤なトマトに含まれるリコピンという赤い色素はカロテノイドの一種で、動植物に含まれる赤、黄色やオレンジ色の色素のことをいいます。油に溶ける性質なので、油を使った料理でとると、吸収率がアップします。このリコピンは、紫外線を浴びることによって肌の表面に発生する活性酸素をとりのぞき、メラニンの生成を抑制するので、美白効果も期待できる物質です。さらに、リコピンの強い抗酸化作用は、動脈硬化を引き起こす悪玉(LDL)コレステロールの酸化を抑制し、動脈硬化症を予防する働きがあるともいわれ、老化や生活習慣病から身体を守る成分のひとつにあげられています。

暑い時期に体をリフレッシュしてくれるお助け食材「トマト」をぜひ味わってみてはいかがでしょうか。

トマトの冷製パスタ



【材料】（2人前）

スパゲティ(乾)	160g
トマト	大1個
にんにく	2片
赤唐辛子	1本
バジルの葉	6枚
オリーブオイル	大さじ2
レモン汁	小さじ1/2
しょうゆ	小さじ1/4
塩	適宜
黒こしょう(粗挽き)	適宜

(1人当り：エネルギー445kcal 塩分1.5g)

【作り方】

1. トマトはへたを取り、1cm角に切る。にんにくはみじん切り、赤唐辛子は輪切りにする。バジルの葉は飾り用の2枚を残して粗くみじん切りにする。
2. フライパンにオリーブオイルを熱し、にんにくと赤唐辛子を入れ、弱火で香りが出るまでじっくりと火を通す。
3. フライパンにトマトを入れ、さっとひとまぜしたら火を止め、ボウルに移す。
4. トマトを入れたボウルの中に、粗くみじん切りにしたバジル、レモン汁、しょうゆ、塩、黒こしょうを入れて混ぜ、冷蔵庫で30分程度冷やす。
5. スパゲティを所定の時間よりも1～2分長めに茹で、氷水でよく冷ます。
6. ボウルのトマトソースとよく混ぜ合わせ、皿に盛り、バジルの葉を飾ったら完成。

メディカルゲノムセンターのご紹介

メディカルゲノムセンター長

加藤 規弘



先進諸国を中心に、社会の高齢化が進むなかで、予防医療の重要性が年々高まりゲノム医療実用化の動きが加速しつつあります。我が国でも、ナショナルセンター、大学、関連学会等で、来るべきゲノム医療の準備に着手し始めていますが、国内外のゲノム研究開発やゲノム医療の進捗状況に鑑みると、多様な課題に対して戦略的、かつスピード感をもって取り組むことが必要と思われます。こうした状況のなか、国立国際医療研究センターのゲノム医療開発・推進組織として、2016年4月1日にメディカルゲノムセンター（Medical Genomics Center：MGC）が発足しました。

ゲノム医療とは、「ゲノム情報 — 遺伝的な情報全体 — を網羅的に調べて、その結果をもとに、より効率的・効果的に病気の診断・治療などを行う」ことを意味します。従来、遺伝子検査（genetic testing）、遺伝医療という言葉が汎用されてきましたが、大まかに言えば、その発展版が、ゲノム検査（genomic testing）、ゲノム医療です。遺伝子検査とは、特定の遺伝子のDNA断片を調べて、その結果を病気の診断、治療、予防に利用しようとする検

査であり、主に遺伝性疾患を対象とします。一方、ゲノム検査は、先行する知識に頼らず、ゲノム情報を対象にして、注目する病気に関わるバリエーション（群）を網羅的に探索するもので、対象疾患も広がってきています。

ゲノム検査に基づくゲノム医療は、探索した結果を、その時々、研究の進捗状況・成果に照らして診療に活用するという、従来の遺伝子検査とは全く異なる概念に立脚するため、医学研究と臨床活用との厳密な区別が難しくなっています。難病などの希少な遺伝性疾患の遺伝子診断、がんの分子標的薬に対するコンパニオン診断薬（医薬品の効果や副作用を投薬前に予測する目的で行なわれる臨床検査で使用する診断薬）の開発などの分野でゲノム医療の臨床活用がすでに始まっています。

メディカルゲノムセンターは、病院、研究所、臨床研究センターなどの部署と連携して医学研究と臨床活用の両方を行う組織であり、その担当する病気は多岐にわたります。表現型から見た場合には異なる臓器・組織の病気であっても、遺伝子・ゲノムから見た場合、同一あるいは共通の原因に由来することも少なくないことが分かりつつあります。メディカルゲノムセンターの一環として、すでにセンター病院では、様々な診療科と連携して臨床ゲノム科を開設しており、今後も一層のご支援ご協力をいただきながら、順次、活動を広げていきたいと思っております。



看護通信

退院調整・看護相談専従看護師に
新しくメンバーが加わりました。

昨年の国立病院機構主催「退院調整看護師研修」を受講した、臨床経験豊富な副看護師長 岡村 翠です。

海外での仕事や訪問入浴などの経験もあり大変心強いメンバーです。

地域の皆様にも、お顔を覚えていただき、今後とも今まで以上に、連携に力を注いでまいりたいと思っております。



よろしく
お願いします。

連携登録医のご紹介

伊藤内科医院

院長 伊藤 匡 先生



診療科 内科、消化器科、循環器科、人間ドック
 住所 練馬区豊玉北5-18-9
 電話 03-3948-5555
 F A X 03-3948-3626
 診療時間 月・火・水・金
 9:00~12:30 15:00~19:00
 木 9:00~12:30
 土 9:00~13:00
 休診日 日曜日、祝日
 交通 西武池袋線・有楽町線・大江戸線
 練馬駅南口 徒歩1分



西武池袋線練馬駅前で開院して18年程になります。当医院は地元商店街や住宅街の方々、区役所庁舎を中心に、銀行、警察署を囲むオフィス街の方など色々な方が受診されます。消化器を中心に診療を行って参りましたが、現在は上部・下部内視鏡を年

間500例程、超音波検査を年500例程行っております。患者さんの年齢層も幅広く、高血圧症、糖尿病、心臓カテーテル治療後、脳血管障害、感染症、呼吸器疾患など内科全般の診療も行っています。練馬区には総合病院などが少なく、消化器科をはじめ紹介先にいつも苦労します。そして紹介入院された患者さんの経過や治療の情報が十分得られない事が多くあります。そんな中、医療研究センター病院出身の先生にお会いし「医療研究センター病院の消化器カンファレンスは外科も内科も合同で自由に討論するし、病理組織検査の考察もできる」と聞きました。実際に参加させて頂いたところ、大学の医局にない外科・内科の垣根を超えたもので驚きました。これは消化器疾患で遭遇する、外科的手術か内科的に内視鏡治療かが迷わずにお願いできると思いました。その上カンファレンスでは、患者さんの治療経過も把握もできるので、全体を見渡すことができます。開業医にとって紹介した患者さんの治療経過が理解できる事はとても勉強になり有り難い事だと考えます。腹腔鏡、内視鏡手術が普及し入院期間も短縮し、がんの化学療法も通院治療に代わって来ています。高齢化社会が進み、がん患者さんも増加するなかで、地下鉄大江戸線一本でアクセスできる利便性もあり、国立国際医療研究センター病院の先生方と地域医療連携を出来たことは練馬の地域の方々にも貢献できるかと考えています。今後ともどうか宜しくお願い致します。



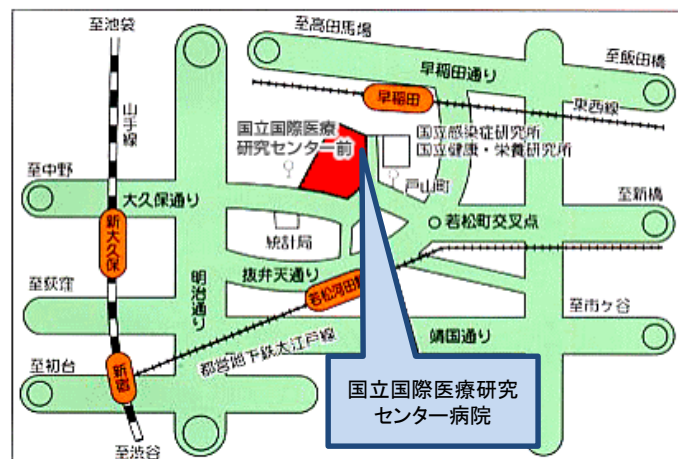
外来診療時間 8:30~17:15
 ・初診受付 紹介状が無い場合 8:30~11:00
 紹介状が有る場合 8:30~14:00

ただし、形成外科、産婦人科、神経内科、整形外科、精神科、リハビリテーション科の6科および結核(疑いも含む)については「11時までの受付」となっています。

・休診日 土・日・祝日・年末年始

アクセス

- ・都営地下鉄 大江戸線「若松河田駅」より徒歩5分
- ・東京メトロ 東西線「早稲田駅」2番出口より徒歩15分
- ・JR大久保駅又は新大久保駅より都営バス「新橋」行 国立国際医療研究センター前 下車
- ・新宿駅西口より都営バス「医療センター経由女子医大」行 国立国際医療研究センター前 下車



国立研究開発法人

国立国際医療研究センター病院

TEL 03-3202-7181 FAX 03-3207-1038

〒162-8655

東京都新宿区戸山1-21-1

ホームページ

<http://www.ncgm.go.jp/>

